

第28号

大垣教区 坊守会だより

2021年8月31日

大垣市伝馬町11

真宗大谷派 大垣教務所内

「大垣教区坊守会」発行

特集Ⅰ コロナ禍での坊守研修会

4/26：山内小夜子氏…「水平へのあこがれ」

6/25：三島清圓氏…「過去の宿善」

大橋尚代…一人（いちにん）として

特集Ⅱ ズーム委員会の活動

佐々木優子…ズーム委員会に参加して

福島典子…新しい聞法のかたち

ほか





後列左から吹原美由紀さん(会計)・禿あつ子さん(会計)・大橋尚代さん(広報)・松島頼子さん(広報)
前列左から横井園恵さん(副会長)・稲葉佳代さん(会長)・堀康子さん(副会長)

親鸞聖人の時代とコロナ禍を生きる私たち

坊守会会長(第一組 等覺坊)

稲葉佳代



四月二十六日、上半期休止状態であった坊守会が、やっと第一回の坊守研修会を開くことができました。リモートという新しい試みでしたが、常任委員の中でズーム委員会を立ち上げ、そのメンバーが中心となつての開催でした。慣れない中でも無事にやり終えてくれたスタッフに感謝したいと思います。

四月は、本山のリモートが四回ありました。お待ち受け記念講演会・若坊守研修会・女性会議・坊守研修会です。家に居ながらにして、貴重なお話を聞くことができます。本当にすばらしいことだと思います。対面の良さは勿論ありますが、自坊で忙しくしている坊守にとつて、わざわざ出かけていく必要のないリモートは、聞法の開かれた世界です。コロナが収束した後も、リモートが、対面の研修会と並行して実施できる体制作りを考えていくべきだと思います。

コロナ禍にあつて、当たり前前にはやってきたことができない毎日です。東海連区の坊守研修会は、名古屋教区担当の昨年度が中止に追い込まれ、岡崎教区担当の今年度が延期となつてしまいました。担当の方々はこの状況下で、どのような開催なら可能かを模索しておられることでしょう。これまで私たちが経験してこなかった出来事に直面して思うことは、今が聖人の生きておられた時代と重なり合うのではないかとということです。平安時代末期から鎌倉時代の動乱期にあつて、生きること自体が大変な時代であつたと思います。

一方で、現代の私たちが明日が保証されていない毎日を生きています。コロナで亡くなった方は、お骨でしか戻ることができません。家族に別れを告げることもできずに、浄土へ還らなくてはいけないのです。毎日が感謝の日々であることを気付かせてもらえる今日この頃です。

「住職・坊守追弔会」開催

さる二〇二〇年十月二十三日、午前十一時より、大垣別院本堂で「住職・坊守追弔会」が行われました。坊守会会長及び副会長が司会を担当し、坊守会の各役員が受け付け、接待などをさせていただきました。最初に譽田和人（ほんだ やすと）大垣教務所長にご挨拶していただき、大垣教区会議長の龍茂樹氏から講話をいただきました。大切な肉親との別れは辛いものです。でもその方々の生き様を振り返ることで、今後の私たちの生き方を考えていくご縁になればと願っております。



- ① 追弔会の司会を行う稲葉会長と堀副会長(右奥)と横井副会長(右)
 ② 大垣教区会議長の龍氏による講話
 ③ 譽田大垣教務所長のお話

十五年前の原稿との再会から

副会長（第十八組 圓勝寺）

横井 園 恵

十五年前の教区坊守研修会で、若坊守として話したときの原稿が出てきました。若おくりさまと呼ばれる日々が始まり、多くの人が集まる場が苦手な私にとつて、知らないことばかりの寺は、怖くて逃げたくなる所でした。それでも、参拝される人の姿、真宗学院での学び、月参りや法事での会話などから学びを得て、迷いながらも歩んできました。

十五年前に出会った詩（前略）わからない中にも今やつとわかってきた一つのこと 自分を苦しめるのは自分 他人ではない自分の心々 今ようやく私にもわかってきました。

今春の永代経は、今できることを、心を込めて楽しんで準備することができました。十五年前にも感じていた、あるがままに見る目と、見えないものにも思いを馳せ、感じ取る心を持ち続けたいと思います。思い一つで変わる人生、苦しみも喜びも感謝へと変わる。出会うすべてのものを大切にしながら、これからも生きていきたいと改めて感じました。

坊守活動を通して

副会長（第七組 等流寺）

堀 康 子

七組の坊守会は、追弔会並びに総会・学習会・新年会など年六回の活動をしています。また三年に一回日帰り旅行をしています。

坊守になりたての頃、学習会はお聖教の領解を問う窮屈で堅苦しい特別な場と思っていました。ところが、その内容は法話だけではなく、儀式作法、仏華の立て方、ご講師の趣味の切り絵など多種多様でありました。時に羽目を外し脇道にそれることもありました。時に賑やかで心和む場でありました。

先日伺った学習会では、私が問い続けている「命」をテーマに法話され、頷き、そして改めてそのことを見つめ直すよい機会をいただきました。とても感謝しています。坊守会は、人が出遭い、あるがままの自分を明かすことで、どうにもならない愚かで、いたらない私であることに気付かせていただく場でありました。それはまた如来のはたらきの中で生かされている私でありました。

特集 I

コロナ禍での坊守研修会



コロナウイルス感染拡大のため、研修会の開催も危ぶまれましたが、2回の研修を行うことができました。また今回は坊守会の中で「ズーム委員会」(福島典子さん(第2組)・佐々木優子さん(第4組)・大橋尚代さん(第5組)・春日一美さん(第8組)・中嶋香さん(第17組))が立ち上がり、大垣教務所をサテライト会場に、坊守会としては初めてズームによる研修会を開催。コロナ禍においても開催可能ということで、画期的な研修となりました。

第1回：4月26日(月) 水平へのあこがれ ― 近代真宗大谷派における女性の歴史

講師 山内小夜子氏

第2回：6月25日(金) 過去の宿善

講師 三島清圓(みしま きよまる)氏



一人(いちにん)として

大橋尚代(第5組 専徳寺)

今年度の当初、大垣教区のホームページには「坊守会は外郭団体だから」という理由で坊守会についての記載がありませんでした。「坊守って何だろう？」素朴な疑問が湧いてきます。実はこの「坊守とは？」という問いは、今までもいろいろなタイミングで投げかけられてきた歴史があるようです。1989(平成元)年8月に大垣教区坊守会の機関誌第1号が発行され、第4号から年1回の発行となりました。当時は「女性住職就任制限改正」「女性室設置」などがあり、坊守が主体的に宗門活動に取り組もうという意識の高まりが紙面から感じられます。そして1998(平成10)年には、「臨時措置条例」(住職の男性配偶者について坊守規定は適用しない)を巡って、「坊守とは？」を問いかける教区坊守会によるアンケートが実施されています。

今回「女性史に学ぶ学習資料集」の執筆者の一人である山内小夜子氏に御講義をいただき、女性たちが女性であるという理由で学びの場所や、僧侶という位置から排除され、寺院の運営には「住職の内助者」として、戦時下にあっては「銃後の守り」として教団という組織に組み込まれてきた歴史を確認しました。皮肉なことに女性の得度が認められたのは太平洋戦争勃発後の1941年で、ピンチヒッターとして認められた僧侶でした。

「大谷派貴婦人会」(東京)と「大谷派婦人法話会」(京都)といった女性の教化団体は明治期から存在しており、特に前者は「日本女性の心の修養を」という意図で設立されています。女性は常に教化の対象であり、時代の中で社会や教団が望むものを、「坊守のあるべき姿」として求められてきたのです。

今回の研修会で明治以降に坊守と呼ばれる女性たちが生きた足跡を学び、改めて「坊守とは?」「坊守会の存続する意味とは?」「坊守会のあるべき姿は?」などの問いと共に、一人(いちにん)として主体的に寺で生きていきたいという思いを強くしました。

ズーム委員会の活動

ズーム委員会に参加して

第四組 福満寺 佐々木 優子

「今年度の坊守研修会は例年のようにできるでしょうか」今まで経験したことのないコロナ禍という状況の中、社会全体が当たり前でできていたことができなくなりました。いつものようにできないのなら、中止しかないと思う中、「去年聞けなかった先生のお話が聞きたい」「安全に研修会ができるのは、いつだろう」そんな声があがり、研修会は「web会議アプリを使用して開催しようということになりました」。

リーダーを中心に五人がズーム委員会のメンバーになりました。私は、スマホも使いこなせませんし、ネットに関わる様々な用語の意味も理解できていません。そんな私でも参加できるようになるのか、不安でした。メンバーも同じ気持ちだったそうです。五人で四月の研修会に向け、夜八時から何度かズーム会議に挑戦しました。

初めは慣れていないせいか定刻に入れなかったり声が聞き取れなかったりしましたが、研修会が近づく頃にはスムーズに使いこなせるようになり



ました。当日、山内先生・三島先生のお話を拝聴できたときは本当に嬉しかったです。

研修会は、対面で開催することが何より望ましいと思います。『ネットで研修会』には情報モラル等に関することや、環境を整えなると参加できない場合もあり、課題もあります。しかし、コロナ禍の今、できる方法を模索し、挑戦したり工夫したりすることが改めて大切だと思いました。



新しい聞法のかたち

第二組 永壽寺 福島典子

今期、私は自組の坊守会長として、常任委員会に出席する立場となり、初めは不安な気持ちで会議に出席していましたが、「坊守研修会をリモートで」という案が早い段階で出されて、「なんて画期的な教区だろう！」と一気に興味が湧いてきました。

私には、現在小学生と中学生の子どもがいます。子どもたちは今、GIGAスクール構想で一人一台のタブレット端末を与えられ、新しい形での学習が始まっています。この「GIGA」とは、「Global and Innovation Gateway for All」という意味だそうです。まさに今、私の目の前にもその入口があると感じました。激しく変化していく時代の中で、その変化について行けず諦めることも多かった私ですが、リモートでの坊守研修会実現に向けて立ち上げられた「ズーム委員会」の一員として、一歩踏み出すことにしました。

マニュアル通りにズームアプリをダウンロードし、最初のミーティングで、ズーム委員会の皆さんと手元のスマホで確認し合いながら、ようやくオンラインで繋がりました。ミーティング前の緊張と不安、終わってからの満足感はとても新鮮で、人と会えない、集まらないコロナ禍で、なくてはならないツールだと感じました。

その後何度かズームミーティングを重ね、第一回大垣教区坊守研修会の進行手順を打ち合わせました。その甲斐あって無事オンラインで山内小夜子先生のお話を拝聴することが出来ました。

コロナ禍でも聞法できるこの新しいスタイルが、もっと多くの人に広がり、皆さんと共有していけたらと思うばかりです。

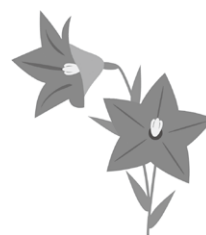
ズーム研修を終えて

ご参加いただいた皆さまのご感想を一部、ご紹介させていただきます。

過去からの坊守制度を詳しく説明していただきありがとうございました。2008年の寺院教会条例第20条は本当に現在には合っていないなと思います。二つの寺を守っている人たちが身近にいるので、将来どうなるか心配しています。



私は在家の出身で、結婚と同時に同朋別科または真宗学院に入学して勉強したいと思いましたが、家族に反対されました。女がお参りに出ても門徒に受け入れられないというのが理由でした。今でも住職がその時、理解をしてくれなかったことに不満を感じています。



コロナ禍というだけでなく、家を空けにくい状況ですので、リモート研修会は非常に助かりました。ありがとうございました。今後、リモート研修会はニューノーマルとして定着して欲しいと願います。

坊守になって40数年が経ち、今回の研修会で初めて教団における坊守の歴史を知ることができ、時代を背景に坊守がどのように位置づけされてきたかを「坊守規定」の資料をもとに、その歴史を学ばせていただきました。目まぐるしく変わっていく社会において、これからの教団はどのような坊守像を描いていくとよいのでしょうか。そんなことを考える機会となりました。

「職業は坊守ですと言えますか？」という言葉が心に残っています。夫が住職になると同時に自分も坊守になったわけですが、私は坊守なのだろうか。同時に祖母が坊守だった頃のことを思い出していました。私も坊守としてこれからはもっと学んでいかなければと思いました。山内先生のお話を拝聴できてよかったです。ありがとうございました。

コロナ禍の今だからこそ、 坊守会が聞法のよりどころになることを願って

坊守会会長 稲葉佳代

心の準備ができないまま坊守会長をお引き受けして一年が経とうとしています。いろいろ失敗だらけの一年でしたが、皆さまに支えられてここまで来られました。コロナ禍の影響で活動が制約され、恒例の行事を行うことができませんでした。せっかく企画した研修会も中止に追い込まれ、対面の研修会において、いかに三密を避けることが難しいかを思い知らされました。

今期は坊守会で二つの委員会を立ち上げました。一つ目はリモートによる研修会を考えるズーム委員会です。この委員会が中心となって、四月・六月の研修会をリモート形式で行うことができました。まだまだ参加者は少ない状況ではありますが、今後リモートが対面と併用されて普及していくのではないかと考えています。

二つ目は常任委員に交通費が出せないかを検討する報償委員会です。私は一組ですから、教務所まで近くて便利です。しかし、常任委員の中には一時間以上かけて会議に出てくださいる方もいます。その負担をせめてガソリン代として埋め合わせできないかを報償委員会のメンバーで検討していきます。まずは一年を終えて、会計の収支状況を見た上で、慎重に判断していきたいと思っております。

何故リモートの問題や報償を出す問題に取り組むのか。それは坊守会が坊守一人ひとりにとって、身近なものとなり、聞法のよりどころとなることを願っているからです。活動に制約のある今だからこそできることがあるのではないのでしょうか。

2021年度大垣教区坊守会事業計画(案)

テーマ いま寺に生きる — 問いとともに —

坊守研修会 (全5回)

※会場は大垣教区同朋会館 講堂ほか
時間は午後1時30分～3時30分

■第1回

9月13日(月)

講師: 平等良香氏(福井教区第4組徳永寺住職)

内容: 声明作法等、実践を学ぶ

■第2回

10月29日(金)

講師: 藤懿信磨氏(大垣教務所長・大垣別院輪番)

■第3回

11月15日(月)

講師: 佐竹 哲氏(大垣教区第13組 祐泉寺住職)

内容: 未定

■第4回

2022年2月2日(水)

講師: 秦 信映氏(長浜教区第24組明德寺前住職)

■第5回

2022年3月9日(水)

講師: 四衢 亮氏(真宗大谷派青幼年センター研究員/岐阜高山教区 高山1組 不遠寺住職)

内容: コロナ禍における青少幼年教化

住職・坊守追弔会

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、お斎接待はなし。

日時: 10月22日(金) 会場: 大垣別院本堂

大垣・高須別院報恩講・春の法要参詣協力

◆大垣別院報恩講 12月10日(金)～13日(月)

◆高須別院報恩講 12月16日(木)～19日(日)

◆大垣別院春の法要 2022年4月厳修予定

◆高須別院春の法要 2022年4月厳修予定

一日研修会

新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが見えないことから、2021年度は中止とする。

東海連区坊守研修会 (連区坊守会事業)

当番: 岡崎教区

日時: 2022年5月17日(火)

午前10時～午後4時頃まで(予定)

会場: 岡崎ニューグランドホテル

参加費: 未定

真宗大谷派坊守会連盟 (坊守会連盟事業)

※期日・会場は決まり次第連絡

◇坊守会連盟「坊守研修会」

◇坊守会連盟「若坊守研修会」

教区坊守会委員会 (総会)

日時: 7月26日(月) 午後1時30分～

会場: 大垣教区同朋会館 講堂

対象: 大垣教区坊守会委員

坊守研修会レポート 4月17日 第12組

コロナ禍の時代の私たち — 何を守り、何を捨て、どう生きるか。 お寺の生活を通して

講師: 尾畑文正氏 (同朋大学名誉教授) 第12組 傳香寺 松島 頼子



コロナ禍での生活が強いられるようになり、すでに一年半以上が経とうとしています。

ニューノーマル(新しい生活様式)がもたらしたものは、感染リスクを抑えるため、これまで私たちが大切にしてきた人と人との触れ合いを極力減らし、孤に生きる選択をする事でした。そんな中、寺に生きる者としての在り方が問われてきたと思います。



「寺とは仏法聴聞の場所であり、それがなくなったらお寺はお寺でなくなっていく」と先生は言われました。聞法とは私が仏を念じるのではなく、仏が私を念じてくださっていることに気付くこと、仏様の声を聴くことで自らの生き方を問い続けることなのでしょう。

現実的にはコロナ禍で法要も法話の場も減り、経済的には大変な時代です。しかし、ちょっと立ち止まって、お寺の存在意義を問い直すと同時に、坊守とは何か、自分はなぜここにいるのかを見つめ直す良い機会であるとも感じました。

2020年度大垣教区坊守会会計 歳入歳出決算

	自 2020年7月 1日 至 2021年6月30日
歳入総額	1,876,354円
歳出総額	992,945円
差引残高	883,409円

2021年度大垣教区坊守会会計 歳入歳出予算

	自 2021年7月 1日 至 2022年6月30日
歳入総額	2,600,000円
歳出総額	2,600,000円

歳入の部

項 目	決 算 額
1 年 会 費	694,000
2 坊 守 研 修 会 費	0
3 一 日 研 修 会 会 費	0
4 連 区 研 修 会 参 加 費	0
5 教 区 助 成	500,000
6 連 盟 助 成	50,000
7 雑 収 入	7
8 繰 越 金	632,347
合 計	1,876,354

歳入の部

項 目	予 算 額
1 年 会 費	694,000
2 坊 守 研 修 会 費	60,000
3 一 日 研 修 会 会 費	0
4 連 区 研 修 会 参 加 費	400,000
5 教 区 助 成	500,000
6 連 盟 助 成	50,000
7 雑 収 入	12,591
8 繰 越 金	883,409
合 計	2,600,000

歳出の部

項 目	決 算 額
1 連 盟 会 費	425,360
2 報 恩 講 費	30,000
3 研 修 会 費	80,000
4 一 日 研 修 会 費	0
5 連 区 研 修 会 費	0
6 災 害 復 興 支 援 費	0
7 各 組 研 修 助 成 費	360,000
8 派 遣 助 成 費	0
9 会 議 費	6,424
10 機 関 誌 発 行 費	80,300
11 事 務 費	10,861
12 予 備 費	0
合 計	992,945

歳出の部

項 目	予 算 額
1 連 盟 会 費	425,360
2 報 恩 講 費	30,000
3 研 修 会 費	300,000
4 一 日 研 修 会 費	0
5 連 区 研 修 会 費	500,000
6 災 害 復 興 支 援 費	100,000
7 各 組 研 修 助 成 費	360,000
8 派 遣 助 成 費	100,000
9 会 議 費	30,000
10 機 関 誌 発 行 費	120,000
11 事 務 費	30,000
12 予 備 費	604,640
合 計	2,600,000

編集後記

大垣教区の HP に「大垣教区坊守会」のページを作っていただきました。まだ「坊守会だより」しか掲載されていませんが、会としての活動や研修会の情報発信はとても大切で、坊守会に関心を持っていただくには今後定期的な更新の必要性を感じています。(松島) コロナ禍で掲載できる記事があるのかと懸念されましたが、学びの場を確保したいという思いがリモート開催によって結実し、無事発行にこぎつけました。「正論」よりも一人ひとりが本気で悩んで判断することが求められると感じています。(大橋)